

杉コレクション2012 in 宮崎
シーガイア・MOVE IT!
アワード作品

Tawari

Jang Jae-Young・韓国

製品デザインを専攻したものととして、木材で製品をデザインしたことは僕にとつて新鮮でした。
今回メインテーマである「一緒に」というキーワードに杉という素材はとてもふさわしいなと思いました。
杉は目立つ素材ではありませんが、地味ながらも人々をその場の雰囲気になじませるような力を持っている素材だと僕は思います。
当日プレゼンの時も関係者らの明るさや杉

のナチュラルな親和力があってこそ、杉コレが輝けたと思います。
これからこのような杉の力を生かして、多くの人々が楽しみ、一緒に過ごせる杉コレであってほしいと思います。



Tawariは非常に効率的で便利です。すべての棚や椅子をひとつのモジュールとしてロードすることができます。大人なら簡単に屋上にモジュールを移動することができます。テーブルは、組み立て構造なので簡単に組立、分解が可能です。また、これは、子どもから大人まで、自分のキーに合わせてテーブルの高さを調節することができます。

杉コレクション2012 in 宮崎
野田村賞
作品

結杉

石橋輝一・寛浩石
内田利恵子・坂田かおり・大阪府

私たちは「やま」と「まち」と「ひと」の未来を想いながら、杉(国産材)を生活で楽しむ。デザインを通して林業が経済としてまわつていく仕組みを模索しています。

そんな中で今回、人と人世界を結ぶヤタイ「結杉」を提案しました。以前、ある山守さんが「杉の小径木を上手く使うデザインは無いかな」と話されたこと、宮崎の田野町でみられる冬の風物詩「大根やぐら」をモチーフにすることで、このデザインが生まれました。

日本各地の杉で結杉が生まれ、人々が集い、地元の産物で賑わい、そして美味しいお酒で乾杯!

宮崎の皆様、スギコレの皆様、日南十日会の皆様、制作担当の武田さん、そして野田村森ガール!!!



宮崎の冬風景「田野町の大根やぐら」は、街に持ち込むとです。杉棒は紐で結び、やぐらは組み上げて杉板でカウンターは組み上げるとです。行灯は吊り下げたり、イスはブランコにしたり。暖簾はくくって、食って!呑んどけ!ひとりじゃヤタイ!

杉コレクション2012 in 宮崎

入賞 大車輪ヤタイ 大・ゴロー人×人びつたん

デザイナー 田村浩一・大阪府

初出品で初入賞。自身の衝撃的スギです。
「みんなが楽しめるこの「みんな」に表現の難しさがあると感じ苦しみました。
みんな「特定の人ではなく万人」と考えました。
物としては、思い切つて人間物とします!



郷を愛する心、人を愛する心。人の心に勝るものは無し。3.11以降改めて気付いた方も多いのではないか。私のヤタイは売る⇒買う対局的な構造を表さず一つの心で同じベクトルに気づけば、人は集い自然に笑顔がこぼれる。移動時の形の動きと存在、心に花が咲いた様な展開で皆の笑顔がいっそう良くなるに違いない。

杉コレクション2012 in 宮崎

入賞 カラ・桶・ヤタイ チーム・ぼつち 原 章・高見沢仁志・東京都

早いもので連続三回目の入賞、学生だった我々も勤め人です。今回も、デザイン・杉の魅力・ダジャレの高度な三位一体を目指して知恵を絞りました。

なかなか良くできたので、今回こそグランプリだと思っていましたがいやはや甘かった。完熟マンゴーより甘かった。作品もプレゼンもみなレベルが高くて、来年はさらにこの上をいかなければならないと思うと目まがいします。などと、もう来年も来る気になつていきます。延岡で会いましょう!

杉コレクション2012 in 宮崎

入賞 あしただからOK!! みやだら三姉妹 工藤登紀子・崎田真央・吉武春美・宮崎県

入賞したら実物を作って貰えるらしい!と挑戦し始めて6回目の杉コレ。ようやく形になったものは、大きな桶屋台。最終審査の数日前、小林木青会が実物を持ってやってきました。完成度の高い桶屋台に興奮しつつ、引こうとした瞬間、思いが蘇りました。まさにこの状況を想像し、はじめの一步を踏み出したのです。私たちの6年間の集大成なのかもしれせん。

ここから、たくさんのお会いや笑顔があふれる空間が生まれるに違いないと、実感しました。



桶の上で奏でましょう♪桶の上で歌いましょう♪ひとりならカラ桶、集まれば桶(オーケ)ストラ!この屋台は、一人用のステージです。一台だけでもいいですし、数を増やしたり、高さの異なるものを並べても良いでしょう。収納するときは支柱を分割して桶の中へ。屋根は桶のフタになります。



リヤカー付き桶屋台。引手は、屋根柱になる。「あしたからOK!!」は足湯や祭り屋台など用途は色々。昔ながらの桶を使って、子どもからお年寄りまで、人が輪になり、結ばれるタガのようなコミュニケーションツールとして活かしたい。今日があり、明日からOK(大丈夫)という思いをこめた作品。